

ハイヅカ湖地域ビジョン分科会

# 第1回分科会とりまとめ(案)

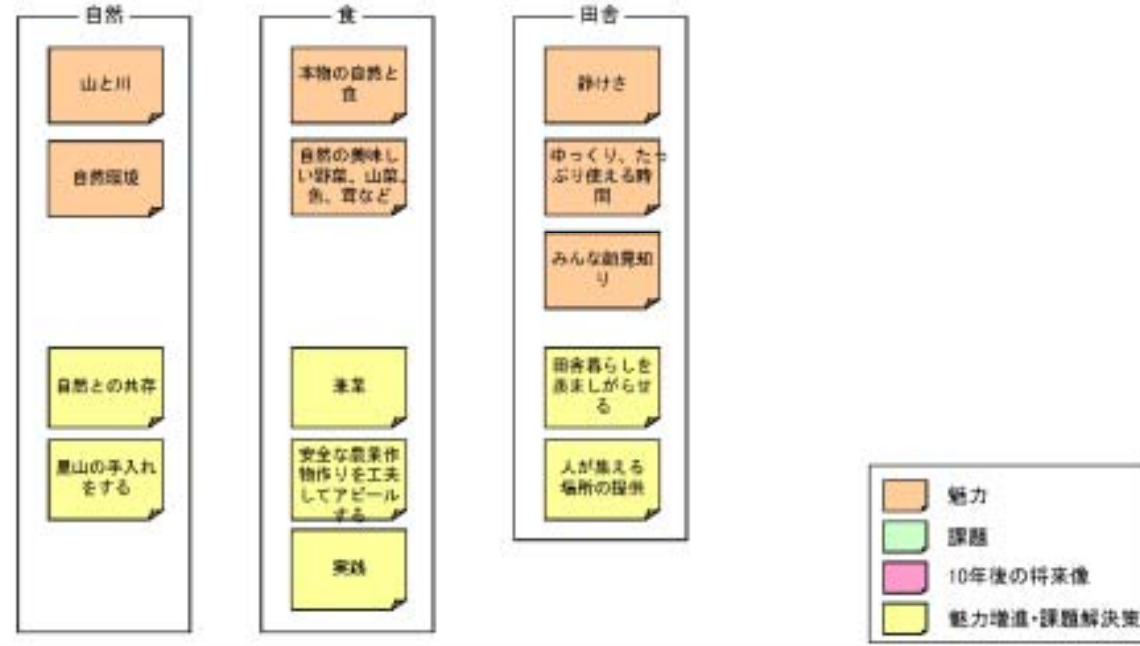
---

平成20年2月12日(火)

# 第1分科会(豊かな暮らし分科会)

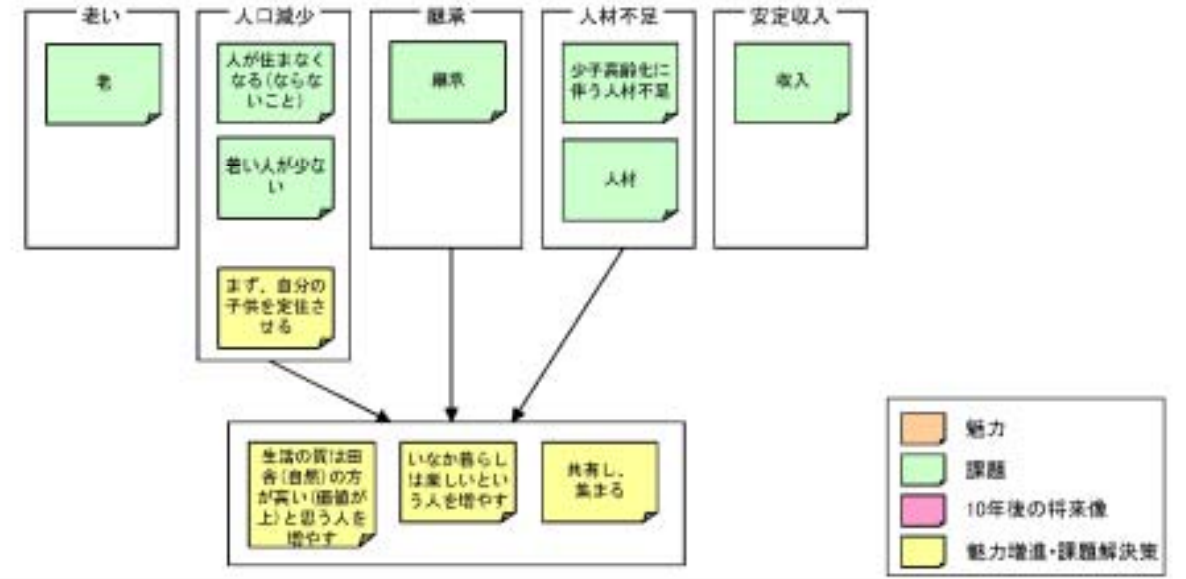
## 第1分科会(豊かな暮らし) 魅力のグルーピング

- ハイヅカ湖地域の「豊かな暮らし」に関わる魅力としては、ハイヅカ湖地域の「自然」、自然由来の美味しい「食」、互いに顔の通じたコミュニティや都市部の喧騒から離れた「田舎」、の3つのキーワードに大別しました。
- 魅力の増進策としては、地域の自然をよりよくすること、自然で安全な食づくりの実践、田舎をうらやましいと思わせるためには先ず住んでいる人々が楽しく暮らすといった意見が出されました。



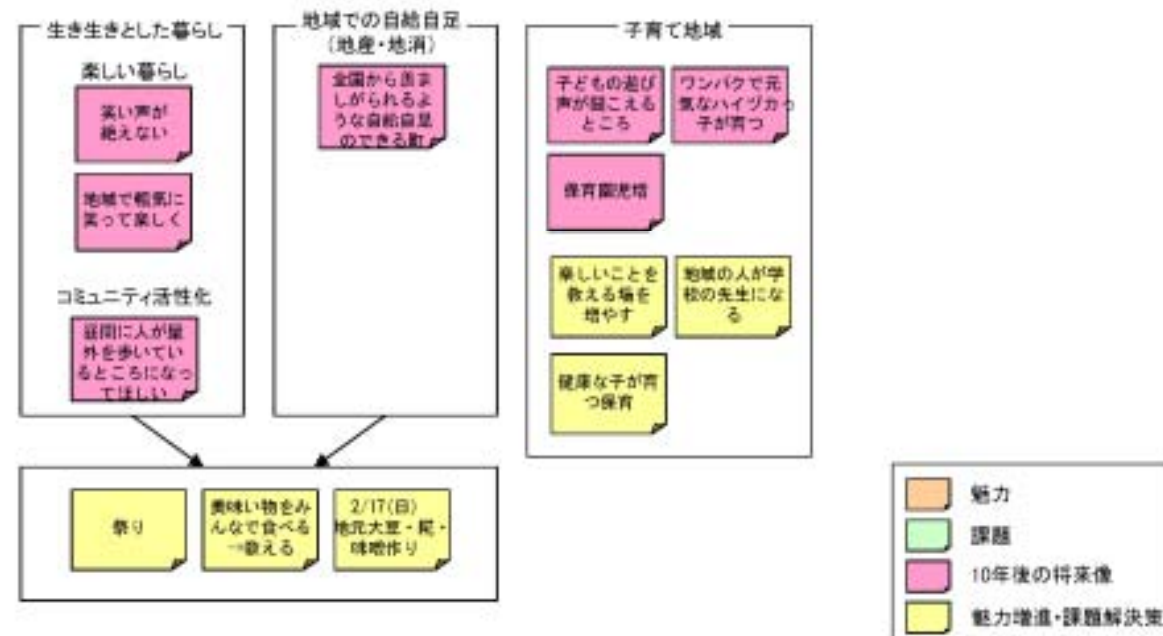
## 第1分科会(豊かな暮らし) 課題のグルーピング

- ハイヅカ湖地域の「豊かな暮らし」に関わる課題としては、住んでいる方々の高齢化「老い」、住む人が減少していく「人口減少」、地域のさまざまなことが後世に伝わらない「継承」、少子高齢化に伴う「人材不足」、住むための基礎となる「安定収入」の5つに大別しました。
- 課題の解決策は、人口減少に対するものとしては、まず自分の子どもを定住させるという意見があり、全般に関わるものとして、田舎暮らしは楽しいという価値観への転換、コミュニティの再構築といった意見が出されました。



## 第1分科会(豊かな暮らし) 10年後の将来像のグルーピング

- ハイヅカ湖地域の「豊かな暮らし」に関する将来像としては、地域が幅気に笑って生活する「生き生きとした暮らし」、地域の食などを地域で回るようにする「地域での自給自足(地産・地消)」、元気な子どもが育つモデルとなる「子育て地域」といった3つに大別しました。
- 将来像に向けた課題の解決としては、祭りや食のイベント、地域と学校等との結びつきといった意見が出されました。



## 第1分科会(豊かな暮らし)での意見交換のまとめ

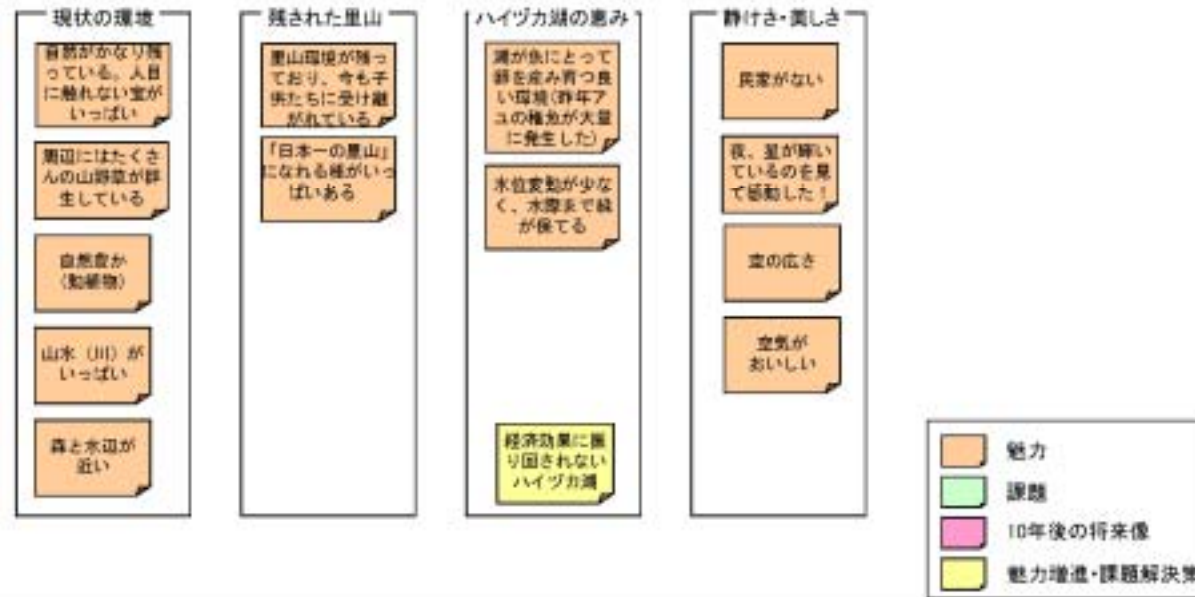
ハイヅカ湖地域の将来像	生き生きとした暮らし			地域での自給自足			子育て地域	—
ハイヅカ湖地域の魅力	自然	—	田舎	食	—	—	—	—
ハイヅカ湖地域の課題	—	老い	人口減少	—	継承	安定収入	—	人材不足
主な増進・解決策への意見	・黒山の手入れ		・先ず自分の子どもを定住させる ・田舎暮らしの価値観の提供 ・田舎暮らしを地域の人が楽しむ ・人の集える場の提供	・農業の促進 ・安全な農作物づくり ・地元大豆の味噌づくり	・美味しい物をみんなで食べ教える。		・楽しいことを教える場を増やす。 ・健康な子どもが育つ保育 ・地域の人が学校の先生になる。	



## 第2分科会(自然との共生分科会)

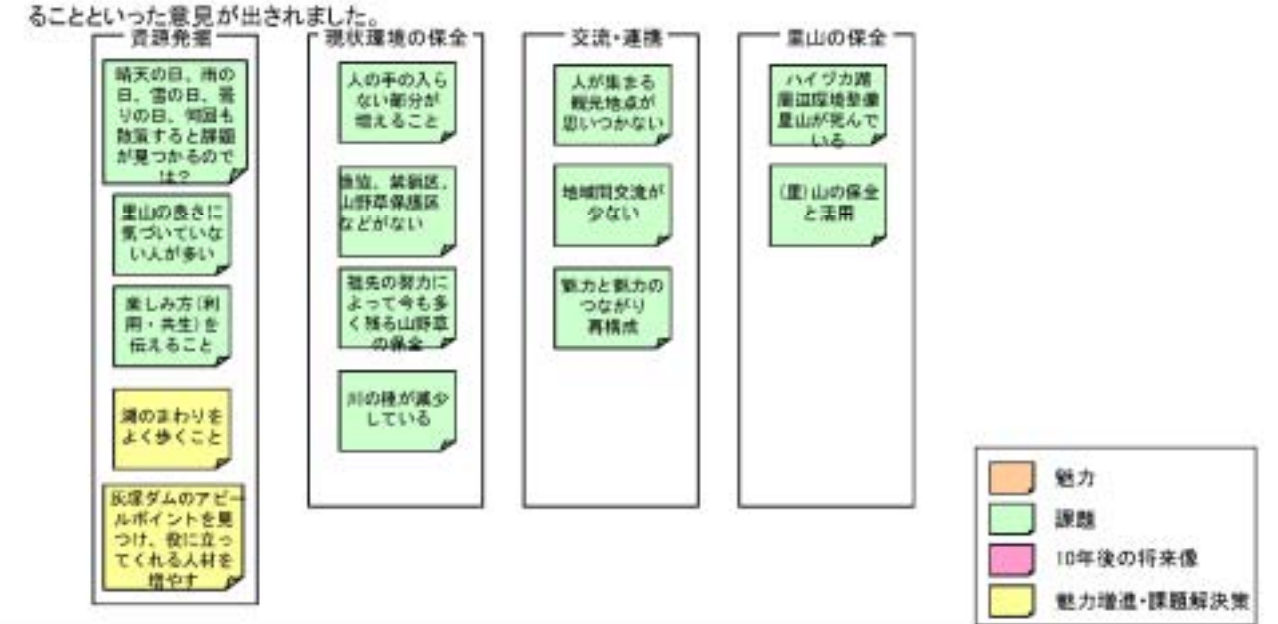
### 第2分科会(自然との共生) 魅力のグルーピング

- ハイヅカ湖地域の「自然との共生」に関わる魅力としては、ハイヅカ湖地域の「豊かな自然」、ハイヅカ湖地域に残っている「里山」、新たにできたことによる「ハイヅカ湖の恵み」、未開発であるが故の「静けさ・美しさ」の4つに大別しました。
- 魅力の増進策としては、自然環境の保全のためには、経済効果に頼らないようにするといった意見が出されました。



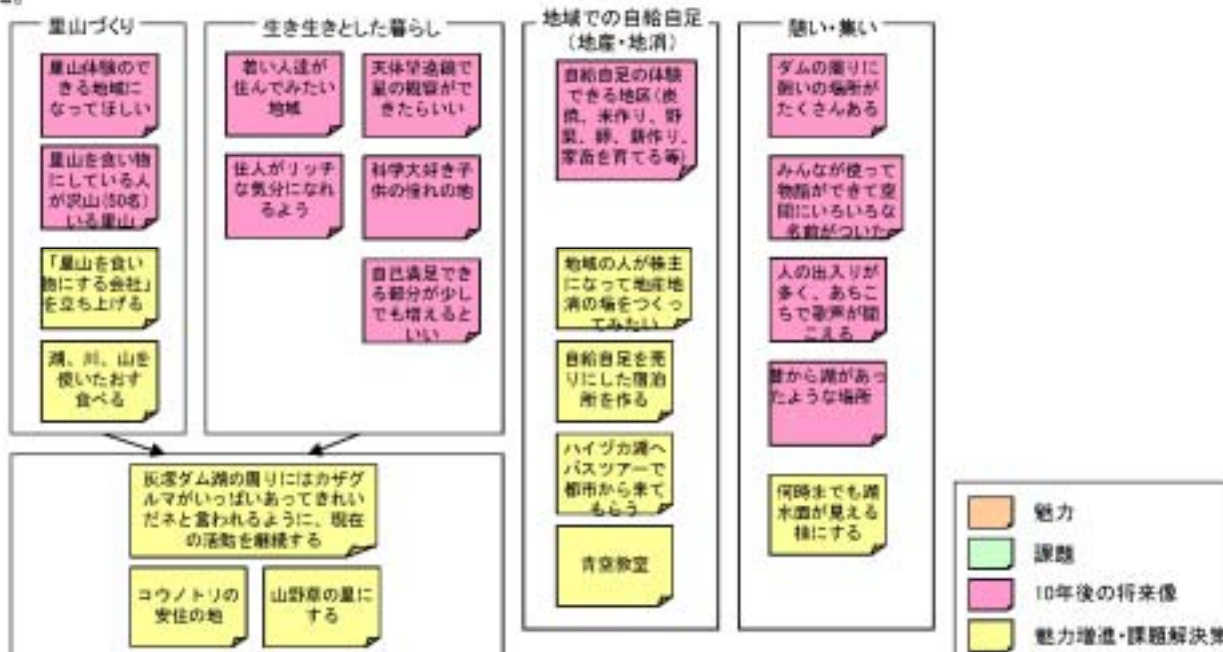
### 第2分科会(自然との共生) 課題のグルーピング

- ハイヅカ湖地域の「自然との共生」に関わる課題としては、ハイヅカ湖地域の魅力を自らを知る・探すといった「資源発掘」、ハイヅカ湖地域の「自然の保全」、地域間及び人の「交流・連携」、継続的な保全・管理が望まれる「里山」の4つに大別しました。
- 課題の解決策としては、地域資源や魅力の発掘には、ハイヅカ湖のまわりをよく歩くこと、またアピールポイントを見つけることといった意見が出されました。



### 第2分科会(自然との共生) 10年後の将来像のグルーピング

- ハイヅカ湖地域の「自然との共生」に関する将来像としては、魅力・課題でもあげられた「里山」、住民が自らを自慢できる「生き生きとした暮らし」、地域での自給自足(地産・地消)、人が集まり憩える空間として「憩い・集い」の4つに大別しました。
- 将来像に向けた課題の解決策としては、里山の適切な活用や再生、地産・地消の体験機会の創出等の意見が出されました。



### 第2分科会(自然との共生)での意見交換のまとめ

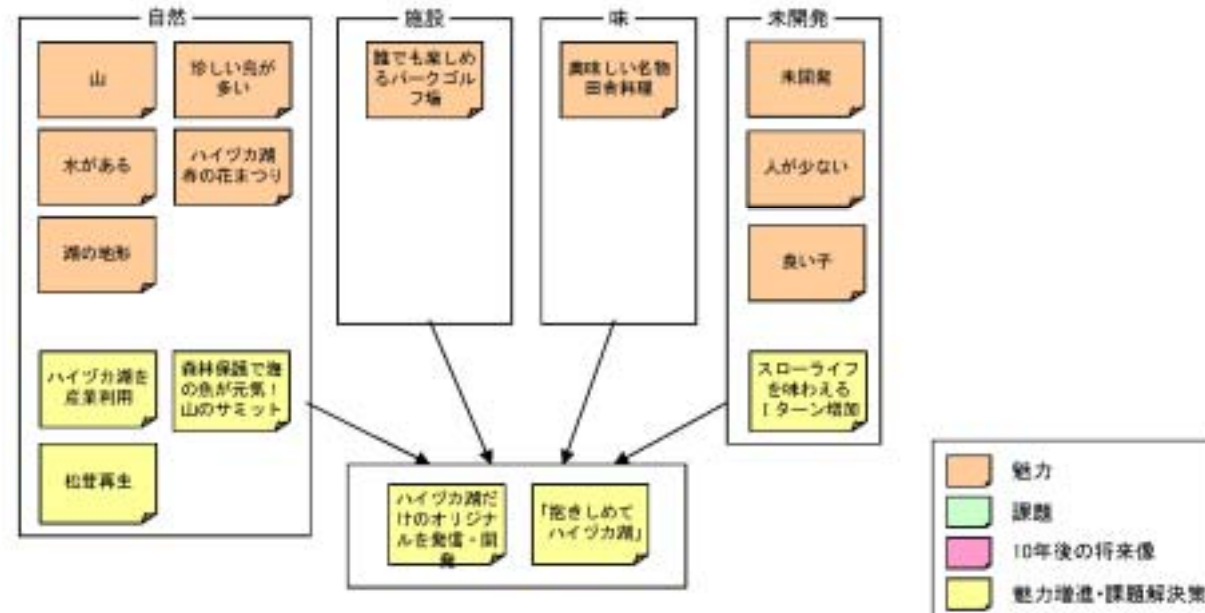
ハイヅカ湖地域の将来像	里山づくり		生き生きとした暮らし	地域での自給自足	憩い・集い	
ハイヅカ湖地域の魅力	残された里山	現状の環境	—	ハイヅカ湖の恵み	—	静けさ・美しさ
ハイヅカ湖地域の課題	里山の保全	現状環境の保全	資源発掘	—	交流・連携	—
主な増進・解決策への意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湖、川、山を使ったおす、食べる</li> <li>・コウノトリの安住の地</li> <li>・「里山を食い物にする会社」を立ち上げる</li> <li>・湖、川、山を使ったおす食べる</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湖のまわりをよく歩くこと</li> <li>・灰塚ダムのアピールポイントを見つけ、役に立てくれる人材を増やす</li> <li>・灰塚ダム湖の周りにはカザグルマがいっぱいあってきれいだと言われるように、現在の活動を継続する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済活動に振り回されない</li> <li>・地域の人が株主になって地産地消の場をつくってみたい</li> <li>・自給自足を売りにした宿泊所を作る</li> <li>・ハイヅカ湖へバスツアーで都市から来てもらう</li> </ul>	青空教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何時までも湖水面が見える様にする</li> </ul>



# 第3分科会(地域活性化分科会)

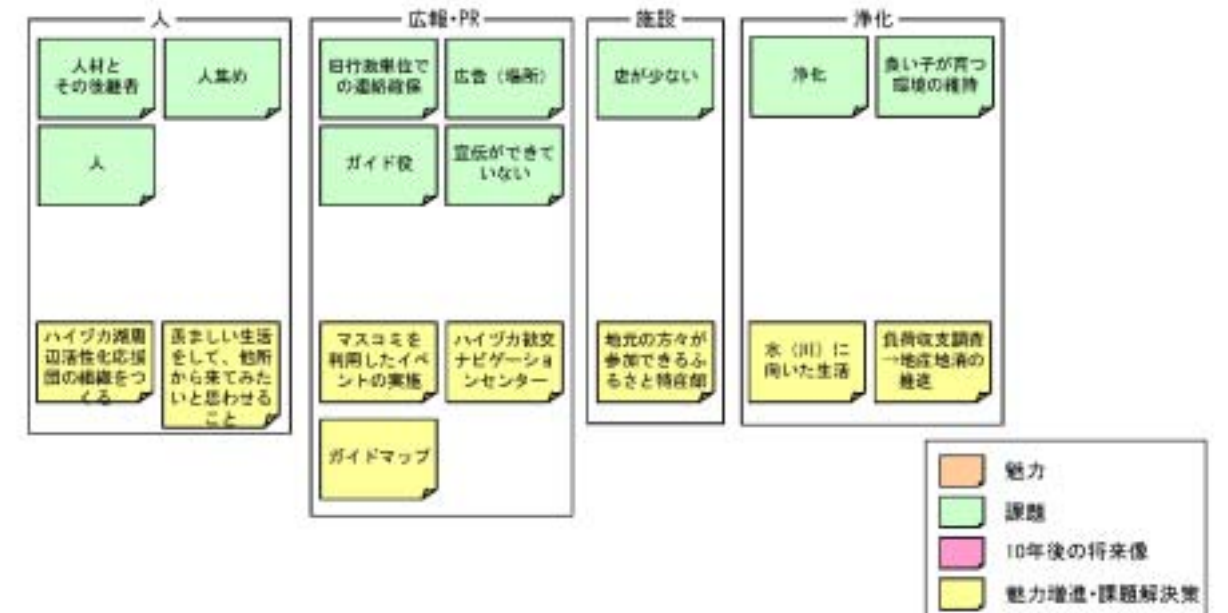
## 第3分科会(地域活性化) 魅力のグルーピング

- ハイヅカ湖地域の「地域活性化」に関わる魅力としては、ハイヅカ湖地域の“自然”、ハイヅカ湖周辺に設置されている“施設”、地域の食を使った“味”、田舎であるが改の“未開発”といった4つに大別しました。
- 魅力の増進策としては、ハイヅカ湖の産業利用、森林保護のサミット、スローライフの体験といった提案に加え、全体として情報の発信や魅力の発信、イベントの実施といった提案が出されました。



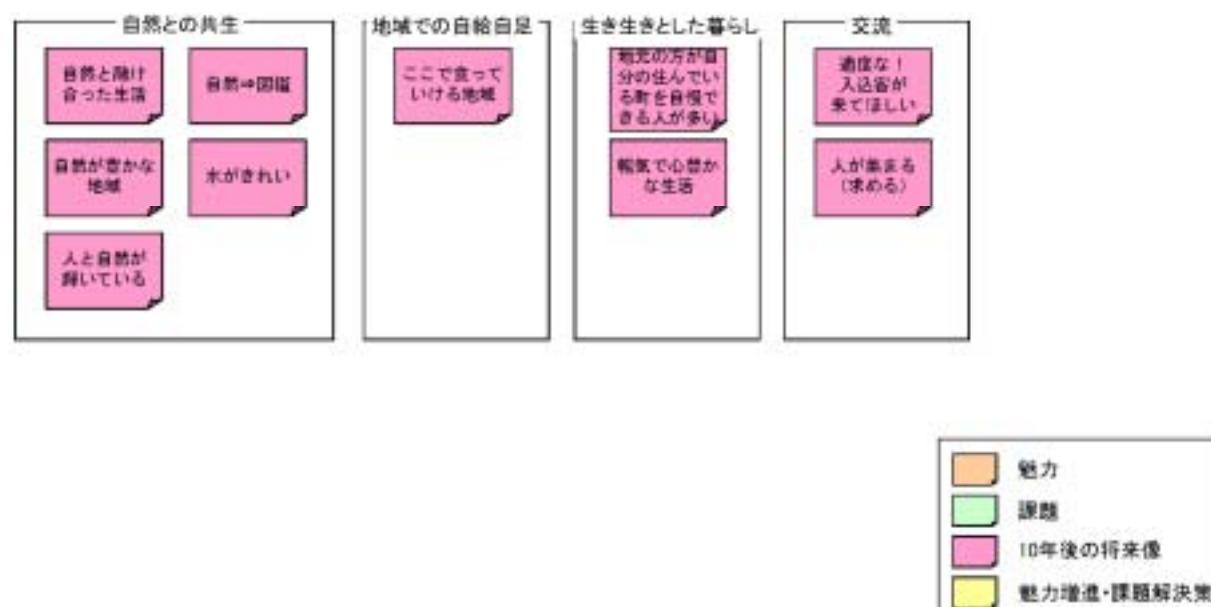
## 第3分科会(地域活性化) 課題のグルーピング

- ハイヅカ湖地域の「地域活性化」に関わる課題としては、活性化の基盤となる人材や人集め等の“人”、ハイヅカ湖地域の周知や各機関での連携等の“広報・PR”、ハイヅカ湖地域では店が少ないといった“施設”、水質や環境の維持のための“浄化”の4つに大別しました。
- 課題の解決策としては、ハイヅカ湖地域を支える応援団組織や先住民が楽しく生活する、また広報やPRへの意見、物産館等の設立や地産・地消の推進といった意見が出されました。



## 第3分科会(地域活性化) 10年後の将来像のグルーピング

- ハイヅカ湖地域の「地域活性化」に関する将来像としては、なによりも地域の魅力である“自然との共生”、地域の食などを地域で回るようにする“地域での自給自足(地産・地消)”、住民が自らを自慢できる“生き生きとした暮らし”、適度に人が集まる“交流”の4つに大別しました。



## 第3分科会(地域活性化)での意見交換のまとめ

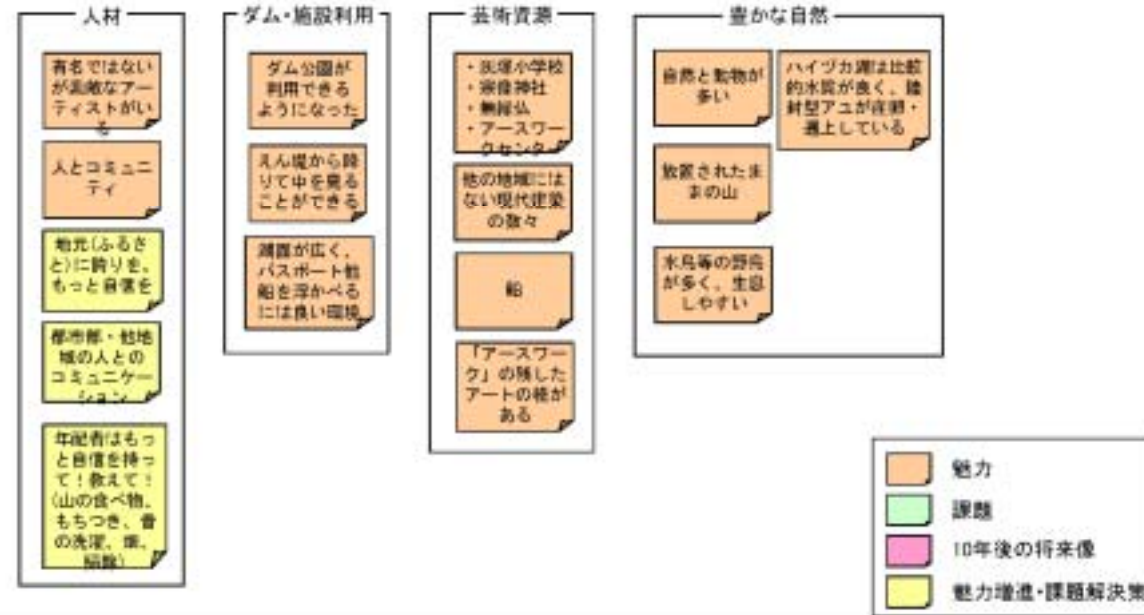
ハイヅカ湖地域の将来像	自然との共生		地域での自給自足	生き生きとした暮らし		交流	—
ハイヅカ湖地域の魅力	自然	未開発	味	—	—	施設	—
ハイヅカ湖地域の課題	—	—	—	人	浄化	施設	広報・PR
主な増進・解決策への意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハイヅカ湖の産業利用</li> <li>森林保護</li> <li>山サミット</li> <li>松茸再生</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>スローライフの体験</li> <li>「ターン」の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハイヅカ湖地域応援団</li> <li>住民が楽しく生活する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水(川)に向けた生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方々が参画できる物産館</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハイヅカ湖だけのオリジナルの発信・開発</li> <li>抱きしめてハイヅカ湖</li> <li>イベントの実施</li> <li>ガイドマップの作成</li> <li>ハイヅカ湖観光ナビゲーションセンター</li> </ul>



# 第4分科会(文化・芸術分科会)

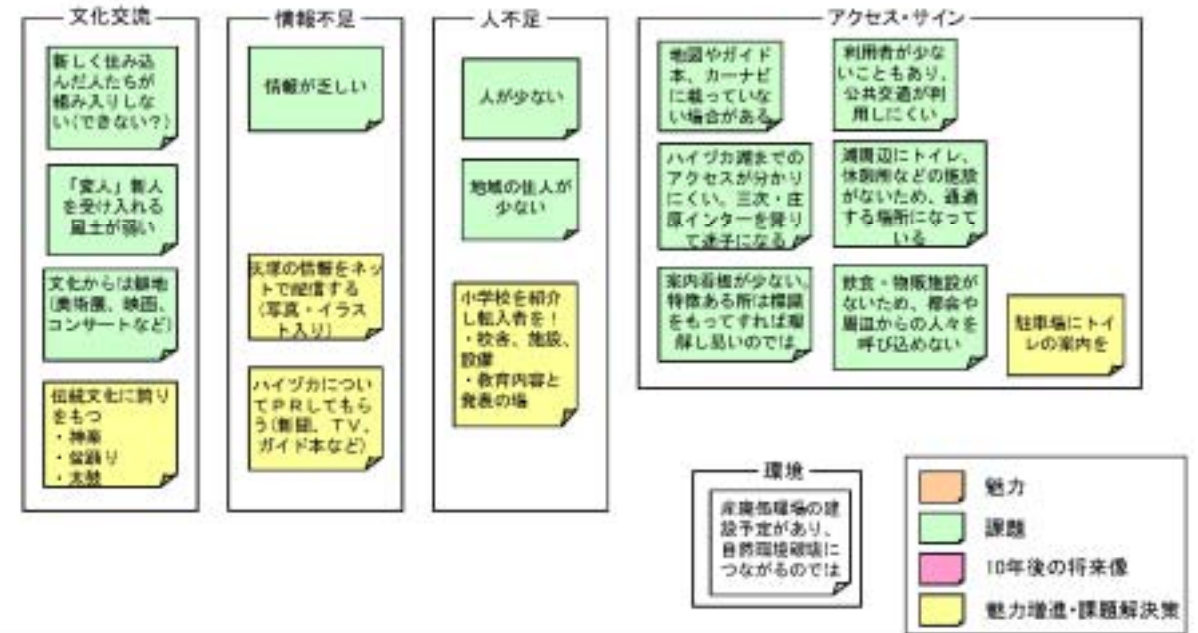
## 第4分科会(文化・芸術) 魅力のグルーピング

- ハイヅカ湖地域の「文化・芸術」に関する魅力としては、地域で活躍する“人材”、ダム堤体や公園・湖画といった“ダム・施設利用”、ハイヅカ湖地域に点在するアースワークに関するものや歴史ある“芸術資源”、またハイヅカ湖の魅力の根幹である“自然”の4つに大別しました。
- 魅力の増進策としては、都市部や他地域や世代間のコミュニケーションの増進、景観保全としての建築制限等の意見が出されました。



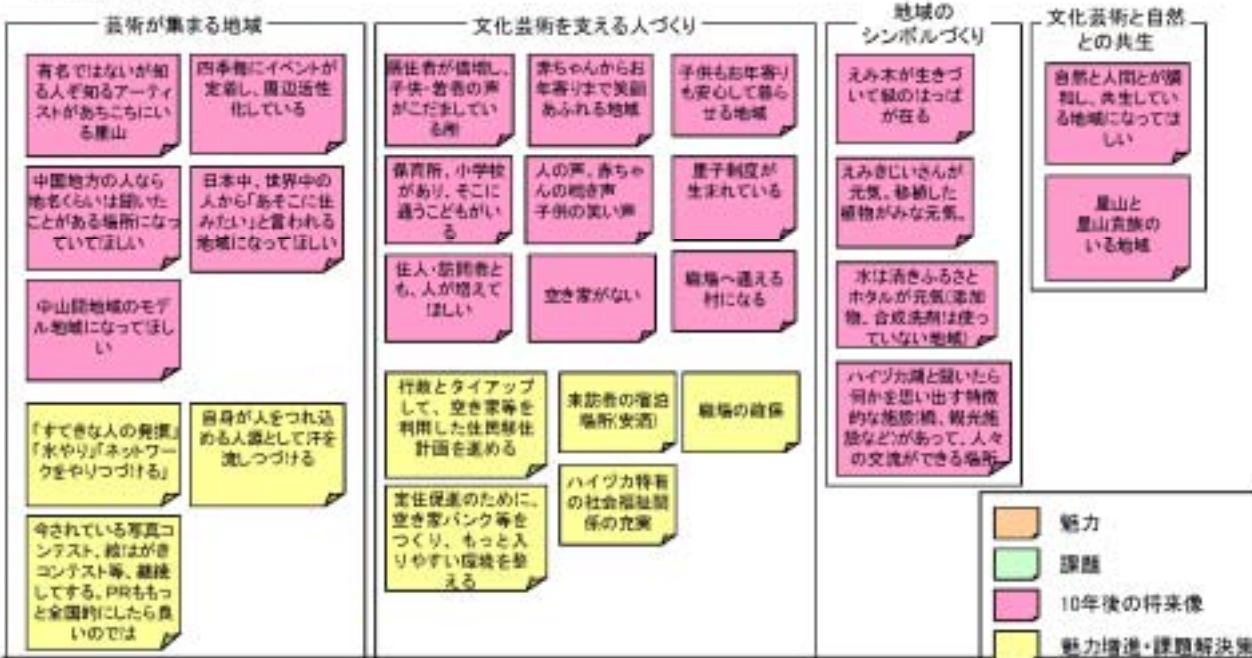
## 第4分科会(文化・芸術) 課題のグルーピング

- ハイヅカ湖地域の「文化・芸術」に関する課題としては、現状では疎遠となっている“文化交流”、文化・芸術の地域の“情報不足”、また文化・芸術を支える“人不足”、ハイヅカ湖地域までの“アクセス・サイン”の4つに大別しました。
- 課題の解決策としては、地域の伝統文化に誇りを持つ、地域の芸術情報をPRする、教育と芸術との結びつきといった意見が出されました。



## 第4分科会(文化・芸術) 10年後の将来像のグルーピング

- ハイヅカ湖地域の「文化・芸術」に関する将来像としては、ハイヅカ湖地域ならではの“芸術が集まる地域”、“文化芸術を支える人づくり”、また、えみきや堂といった“地域のシンボルづくり”、“文化芸術と自然との共生”の4つに大別しました。
- 将来像に向けた課題の解決としては、文化芸術のネットワークの構築やイベントの開催、人づくりのための基盤整備といった意見が出されました。



## 第4分科会(文化・芸術)での意見交換のまとめ

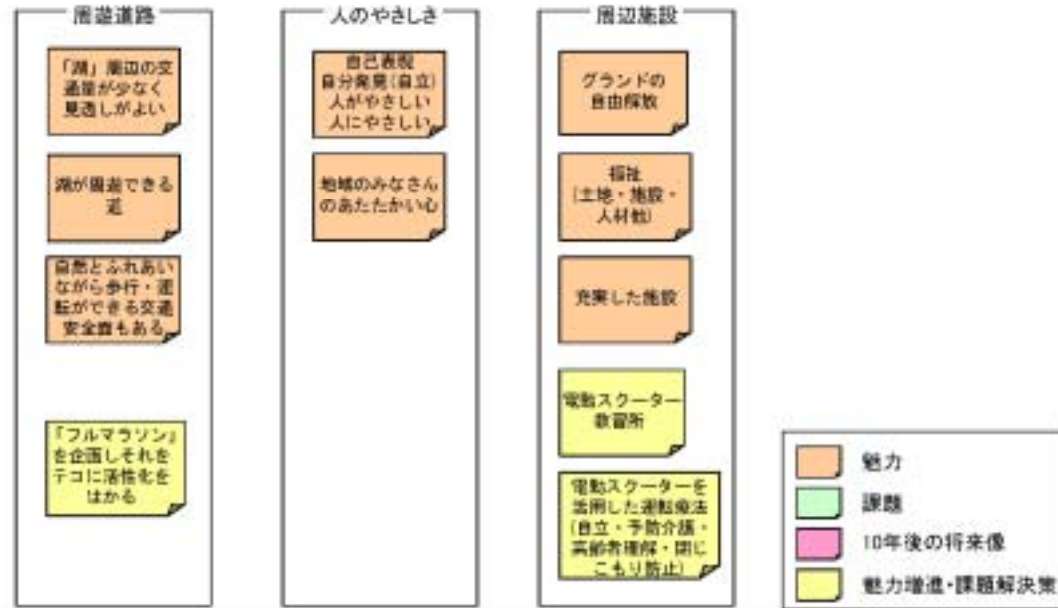
ハイヅカ湖地域の将来像	芸術が集まる地域		文化芸術を支える人づくり	地域のシンボルづくり	文化芸術と自然との共生
ハイヅカ湖地域の魅力	芸術資源	—	人材	ダム・施設利用	豊かな自然
ハイヅカ湖地域の課題	文化交流	情報不足	人不足	アクセス・サイン	—
主な増進・解決策への意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統文化に誇りをもつ(神楽、盆踊り、太鼓)「すてきな人の発信」「水やり」ネットワークをやりつづける</li> <li>・自身が人をつれ込める人達として汗を流しつづける</li> <li>・今されている写真コンテスト、絵はがきコンテスト等、継続してする。PRももっと全国的にしたら良いのでは</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・灰塚の情報をネットで配信する(写真・イラスト入り)</li> <li>・ハイヅカについてPRしてもらう(新聞、TV、ガイド本など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元(ふるさと)に誇りをもっと自信を</li> <li>・都市部・他地域の人とのコミュニケーション</li> <li>・年配者はもっと自信を持って！教えて！(山の食べ物、もちつき、普の洗濯、煙、掃除)</li> <li>・小学校を紹介し転入者を！(校舎、施設、設備、教育内容と発表の場)</li> <li>・ハイヅカ特有の社会福祉関係の充実</li> <li>・行政とタイアップして、空き家等を利用した住民移住計画を進める</li> <li>・定住促進のために、空き家バンク等をつくり、もっと入りやすい環境を整える</li> <li>・東訪者の宿泊場所(安宿)</li> <li>・職場の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場にトイレの案内を</li> </ul>



# 第5分科会(健康・福祉分科会)

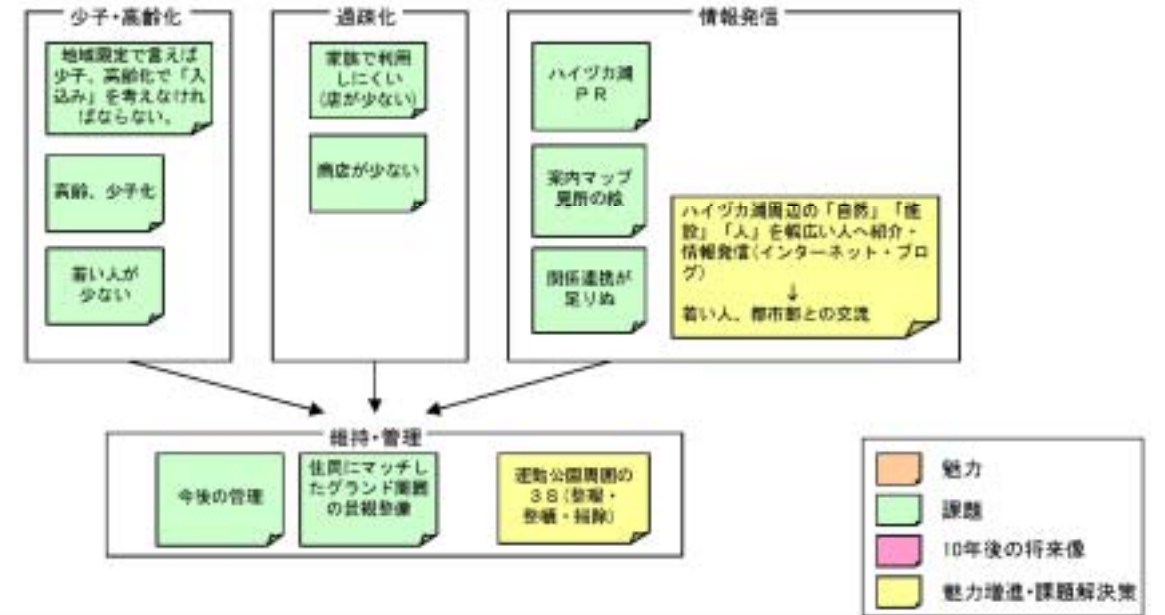
## 第5分科会(健康・福祉) 魅力のグルーピング

- ハイヅカ湖地域の「健康・福祉」に関わる魅力としては、比較的安全で健康増進に活用できそうな「周遊道路」、地域の方々の「人のやさしさ」、ハイヅカ湖地域の充実した「周辺施設」の3つに大別しました。
- 魅力の増進策としては、ハイヅカ湖の産業利用、森林保護のサミット、スローライフの体験といった提案に加え、全体として情報の発信や魅力の発掘、イベントの実施といった提案が出されました。



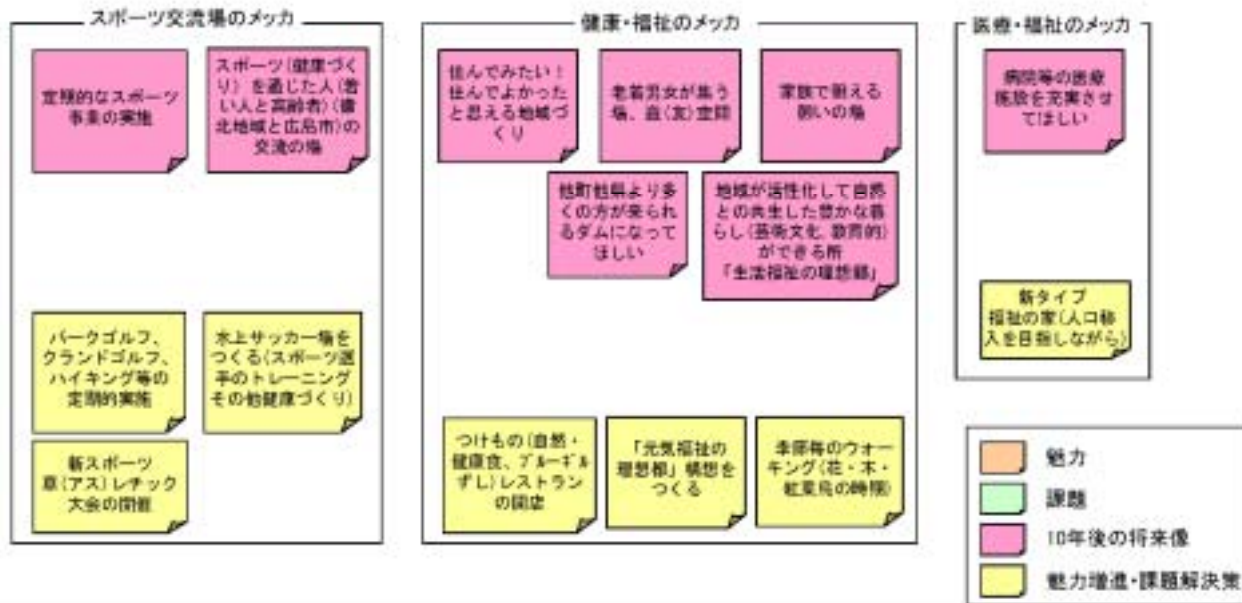
## 第5分科会(健康・福祉) 課題のグルーピング

- ハイヅカ湖地域の「健康・福祉」に関わる課題としては、地域の「少子高齢化」、「過疎化」、また「情報発信」、さらに全体に関わる「維持・管理」の4つに大別しました。
- 課題の解決策は、情報発信に対しては、インターネット等の活用や若い人・都市部との交流、また維持管理に対しては、整理・整頓・掃除といった意見が出されました。



## 第5分科会(健康・福祉) 10年後の将来像のグルーピング

- ハイヅカ湖地域の「健康・福祉」に関する将来像としては、スポーツやイベントを通じた様々な交流のある「スポーツ交流場のメッカ」、年齢や性別に関係なく、他地域から来た人も安心して憩い、集える「健康・福祉のメッカ」、病院等に充実した設備が備わっている「医療・福祉のメッカ」といった3つに大別しました。
- 将来像に向けた課題の解決としては、イベントの定期的な実施、福祉の充実といった意見が出されました。



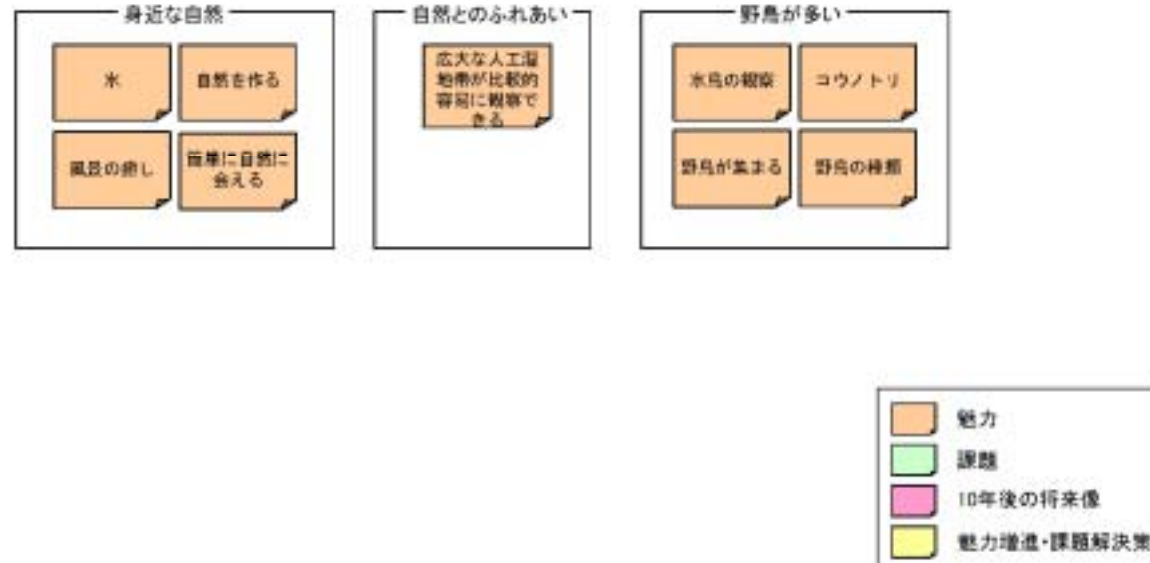
## 第5分科会(健康・福祉)での意見交換のまとめ

ハイヅカ湖地域の将来像	スポーツ交流場のメッカ	健康・福祉のメッカ		医療・福祉のメッカ	-	-	-
ハイヅカ湖地域の魅力	周遊道路	人のやさしさ	周辺施設	-	-	-	-
ハイヅカ湖地域の課題	-	-	情報発信	-	少子高齢化	過疎化	維持管理
主な増進・解決策への意見	・パークゴルフ、クラブゴルフ、ハイキング等の定期的実施 ・新スポーツ草(アス)レチック大会の開催 ・水上サッカー場をつくる(スポーツ選手のトレーニングその他健康づくり)	・つけもの(自然・健康食、ブルーギルずし)レストランの開設 ・「元気福祉の理想郷」構想をつくる ・季節毎のウォーキング(花・木・紅葉鳥の時期)	・ハイヅカ湖周辺の「自然」「施設」「人」を幅広い人へ紹介・情報発信(インターネット・ブログ) ・若い人、都市部との交流	・新タイプ福祉の家(人口移入を促進しながら) ・電動スクーター教習所、運動療法への活用	-	-	・運動公園周囲の3S(整理・整頓・掃除)

# 第6分科会(ウェットランドと環境教育分科会)

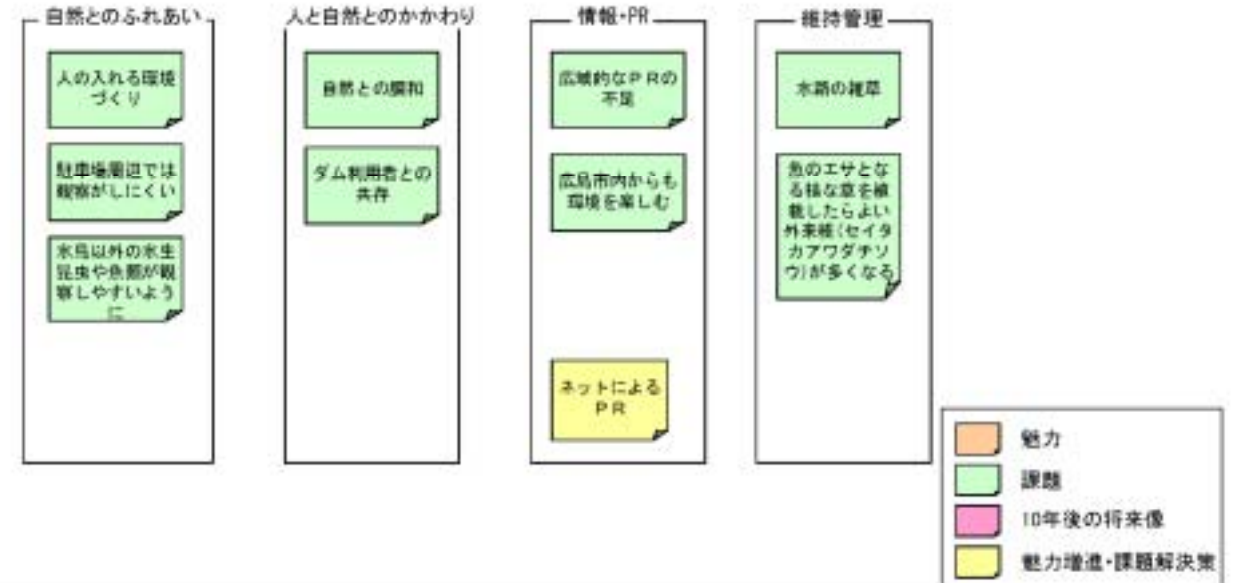
## 第6分科会(ウェットランドと環境教育) 魅力のグルーピング

●ハイヅカ湖地域の「ウェットランド」に関わる魅力としては、「身近な自然」、ウェットランドでの「自然とのふれあい」、ウェットランドに来る「野鳥が多い」の3つに大別しました。



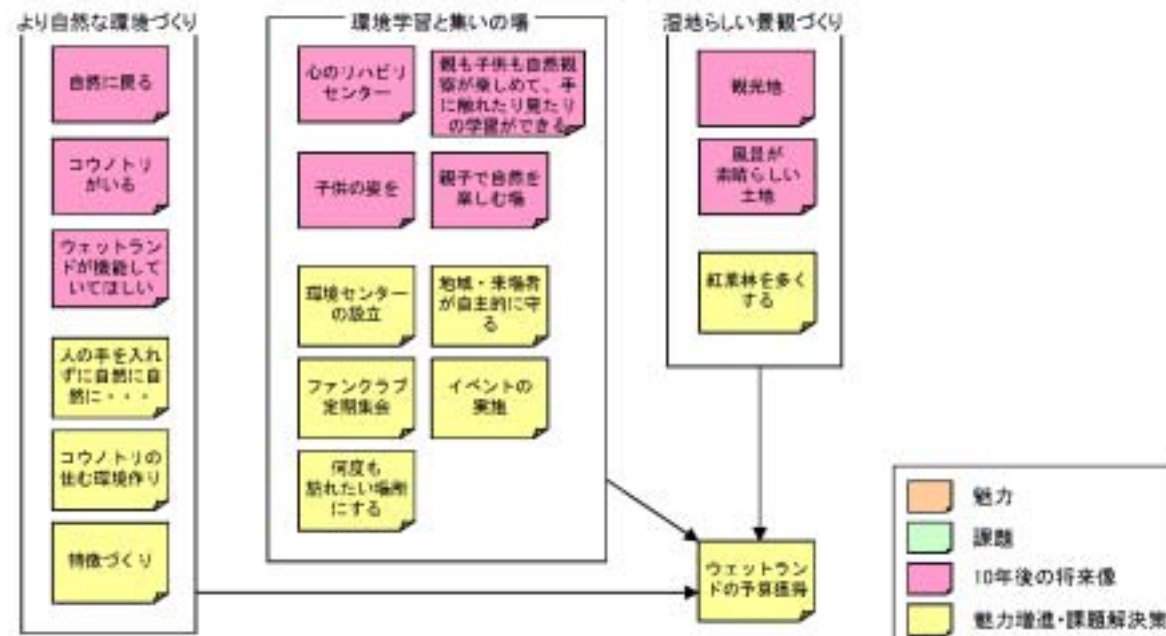
## 第6分科会(ウェットランドと環境教育) 課題のグルーピング

●ハイヅカ湖地域の「ウェットランドと環境教育」に関わる課題としては、人が積極的に自然と接することができる「自然とのふれあい」、人と自然の共存のバランスである「人と自然のかかわり」、広島市都市圏等からの集客に向けた広域的な「情報・PR」、またウェットランドの「維持管理」の4つに大別しました。



## 第6分科会(ウェットランドと環境教育) 10年後の将来像のグルーピング

●ハイヅカ湖地域の「ウェットランド」に関する将来像としては、なによりもウェットランドの魅力を高める「より自然な環境づくり」、またその環境を活用した「環境学習と集いの場」、さらには、「湿地らしい景観づくり」の3つに大別しました。  
 ●将来像に向けた課題の解決としては、権力人の手を入れない環境づくり、ビジターセンター的機能の確立やファンクラブの創設、広葉樹林での景観形成といった意見が出されました。



## 第6分科会(ウェットランドと環境教育)での意見交換のまとめ

ハイヅカ湖地域の将来像	より自然な環境づくり		環境学習と集いの場		湿地らしい景観づくり	—
ハイヅカ湖地域の魅力	身近な自然	野鳥が多い	—	自然とのふれあい	—	—
ハイヅカ湖地域の課題	人と自然のかかわり	—	維持管理	自然とのふれあい	情報・PR	—
主な増進・解決策への意見	・人の手を入れずに自然に自然に ・コウノトリの住み環境作り ・特徴づくり	—	—	・環境センターの設立 ・ファンクラブ定期集会 ・何度も訪れたい場所にする ・地域・業者が自主的に守る ・イベントの実施	・ネットによるPR ・紅葉林を多くする	・ウェットランドの予算獲得